

中川村誌発刊(平成18年)



アルプス展望さわやかウォーク(平成12年)



かつらの丘マレットゴルフ場完成(平成6年)



第1回中川どんちゃん祭り開催(平成4年)



チャオ完成(平成2年)

次代につなぐ村づくり

平成11年～20年 1999～2008



村営新巡回バス運行開始(平成16年)



中川文化センター完成(平成9年)



公共下水道大草処理区供用開始(平成9年)

1999...2008

1989...1998

情報化、グローバル化、少子高齢化の進行など、21世紀に入り日本社会はこれまで経験したことのない激動の時代を迎えている。その影響は基礎的自治体である中川村にも及び、自立に向かつて村は新たな地域づくりの道を進むこととなった。

平成13(2001)年に、村の分譲地として造成された八幡平地区が村内27番目の地区として編成された。平成15年に初の若者専用住宅「アルプスハイツ中組」が完成し、平成17年に沖町に「アルプスビュー沖町」が、平成18年に中田島に「ガーデンハウス中田島」がそれぞれ完成した。さらにつどいの広場「パンビー」が平成18年に開所し、子育て支援体制がさらに充実した。このような状況の中で、

平成元年～10年 1989～1998

教育文化施設の整備が進む

元号が昭和から平成に替わり、20世紀も10年余りとなったこの時期、日本社会はバブル経済の絶頂と崩壊後の混乱を経験する。心の豊かさが叫ばれる時流を受けて、村づくりは住民一人ひとりの学習ニーズに応え、教育文化施設の充実が図られた。

平成2(1990)年、村、農協、商工会の三者が連携して共同店舗「チャオ」が開業した。以来、商業の中心地として現在も賑わいをみせている。

村の夏のイベント「中川どんちゃん祭り」は平成4年に始まった。祭り名は一般公募で、住民総参加の賑やかな祭りにしたというの願いから「中川どんちゃん祭り」に決定。17回目となる今年(平成20年)は、村発足50周年を記念して大いに盛り上がった。平成4年には望岳荘が全館完成している。

平成6年にはかつらの丘マレットゴルフ場、ふるさと体験館、NVサウンドホール、大草城址公園管理棟、四徳森林体験館が三オープン。翌年には村の新名所、ハチ博物館が開館した。

村の生涯学習の拠点「中川文化センター」は平成9年に完成。翌平成10年には屋根付運動場「サンアリーナ」も竣工した。名古屋の天白区と「ふれあい協定」を締結したのもこの年である。

生活環境関連では、牧ヶ原南住宅団地(現南原地区)の宅地造成完了(平成3年)、下水道事業着工(平成5年)などが挙げられる。

近年は村にイターンする人が増加傾向にある。イターン者は村に新しい文化をもたらす存在として今後に期待されている。

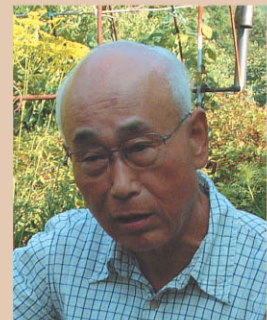
村営巡回バスは平成16年に、乗合タクシー(自家用車有償運送事業)と共に村民が利用しやすいよう新しいシステムを整えてスタートした。平成18年には巡回バスのロケーションシステムが整備され、機能面がさらに充実した。平成5年から着手した下水道事業は平成8年に片桐北部クリーンセンターが供用開始となって以降、平成18年6月までに順次完了となった。

このほか、中川村誌編纂事業が平成18年に完了している。今年(平成20年)10月には「日本で最も美しい村」連合に中川村の加入が決定した。全国の町村と連携を取りながら、今後の飛躍が期待される。

この時期、大きな動きとして市町村合併問題が挙げられる。平成17年3月を期限とする合併特例法を背景に平成15年3月、伊南4市町村任意合併協議会が設立、協議されたが、同年11月、関係市町村の住民意向調査で合併反対が多く、同年12月、協議会は解散となった。また、平成16年10月、駒ヶ根市・飯島町・中川村合併協議会が設置、協議されたが、平成17年2月、3市町村で住民投票または意向調査が行われ、当村では住民投票の結果、合併賛成が多かったものの、他の2市町で反対が多く、同年3月、協議会は解散となった。

地方自治も知恵と個性を活かし、体質を強化して自らの力で生き抜かなければなら

歴史 祭りを盛り上げた 余話 協調性と対抗意識



小池宗夫さん【渡場】

中川村でも夏祭りをやろうというところで、平成4年5月の終わりに初の村祭り実行委員会が開かれました。村の活力をひとつにしよう、会議に熱気が感じられました。

みこしの数も第1回ですでに20基も出ています。中学校の玄関前からきおつていたので、村民グラウンドに入るころには酔いも手伝つてもうヘトヘト。当時は入口で「みこし審査」があり、葛島みこしは3位になりました。良い意味の地区対抗意識が祭りを盛り上げましたね。

最初の企画がしっかりしていたから、今まで続いてきたのだと思います。それと村民性。みんなやろうとする時のまとまりとパワーがこの村は強いですね。これからもみんなの気持ちをつなぎ、祭りを盛り上げてほしいと思います。(談)

ない時代になった。このためにも、50周年という節目の年に私たちはこの村に改めて目を向けてみたい。豊かな自然、農業を柱にした多彩な産業、村民同士の友愛とまとまり……。昭和から平成へ、20世紀から21世紀へと、50年の歴史が培った力を私たちは次の時代、次の世代へつなげていきたい。



第1回信州なががわハーフマラソン(平成20年)